

第 5 回 まち・ひと・しごと創生会議 提出資料

平成 27 年 4 月 14 日
隠岐島前高校魅力化プロジェクト
奥田麻依子

○地方創生におけるひとづくりの重要性

- ・短期的に成果が見える事業だけでなく、今こそ **50 年後の日本を見据えた長期的かつ本質的な施策**も、もっと本気で議論し、展開していくことを推奨すべきである。
- ・中長期的には地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくる好循環を回し、**地方における内発的かつ持続可能なひとづくり、まちづくり、しごとづくりを進めるべき。**
- ・そのためには、「仕事がないから地方に帰れない」ではなく「**仕事を作りて地方に帰りたい**」、「**志を果たしにふるさとに還る**」というような、ローカル（地域）への誇りとグローバルな視野を合わせ持ち、世界とつながりながら地方創生に取り組める**グローバル人材**の育成が重要であり、これは普通科高校を始めとした初等中等教育から行う必要がある。
- ・このように地方の教育環境を魅力化することが、都市から地方への子ども連れの**若い家族世帯の移住・定住を促す要因**の一つになる。

○ひとづくり・教育の魅力化による地方創生のさらなる推進に向けて

・国の研究・研修機関の離島中山間地移転の実現

既存の論理や抵抗を超える異次元の発想と突破力で、課題先進地域である離島中山間地への国の研究・研修機関の移転を実現する。その拠点とフィールドを活用した実践研究を継続的に行い、成果を全国へ発信するとともに、実践的な研修により地方創生人材を輩出し、全国的な取り組みの推進力とする。

・様々な大学が活用できる地方サテライト・地方ラボの設置促進

ICT 環境を完備した小さな「地方ラボ」を公民館等に開設することで、学生は ICT を活用して講義を受講し、地方の現場で実習や研究を行い、現場を知った上での知識の修得ができるようにする。地域とつながりを持った若者が増加し将来的な移住・定住等にもつながる。大学がない離島中山間地域の住民も大学の知や学びを享受できる環境をつくる。

・「標準規模」に囚われない、新しい小さな学校の形の構築

交通や地域的な事情で統廃合が困難な地域において、ICT 等も活用した新しい学校の在り方を構築することで、地域の教育機能を維持し、若い世代の移住・定住につなげる。

・地域の個性である伝統・文化を継承する学びの展開

それぞれの地域の伝統・文化を活かし、継承する教育とひとづくりを推進することで、海外からも評価される日本全体の魅力化を展開する。また、伝統・文化を通じた地域住民との交流により、地域の愛着と誇りを醸成し、UI ターンに向けた土壌をつくる。

・グローバル教育を担うコーディネーター等の人材育成の推進

先行事例からの失敗も含めた知見・ノウハウを共有するとともに、実践による学びを取り入れ、コーディネーター等の育成を加速させることで、全国各地での同様の取り組みの展開を支援・推進する。